

## 1. 現施設の現状と課題

### ■ 県民体育館の現状

施設	面積	コート・コース	収容数	観客席数
主競技場	1945.30㎡ (39.7m×49m)	バスケットボール2面、バレーボール3面、バドミントン10面、卓球36面	4,644人	1,572人
補助競技場	786.48㎡ (23.2m×33.9m)	バスケットボール1面、バレーボール1面、バドミントン3面、卓球16面	-	-
プール	1130.47㎡ (23.9m×47.3m)	25m×8コース	-	-
駐車場	1680.18㎡ (68.3m×24.6m)	-	82台	-

【R5年(2023) 高知市内の体育館・プールの利用状況】

施設	年間利用者数	月平均	月利用者の最低値	月利用者の最高値	日平均 ※月最高値から算出
体育館	74,000	6,166	3,149	6,555	211
プール	43,161	4,316	2,552	6,078	196

＜県民体育館で開催した全国規模の大会やイベントの実績＞

項目	H30	R元	R2	R3	R4
全国大会	4件	2件	0件	1件	2件
イベント	4件	0件	1件	3件	2件

経費	R元	R2	R3	R4	年平均
人件費	50,267	55,174	56,981	56,401	54,706
一般管理費	63,241	51,044	58,056	65,258	59,400
修繕費(※)	149,900	11,908	2,662	7,590	43,015
合計	263,408	118,126	117,699	129,249	157,121

### ■ 県民体育館の課題

- 老朽化等により、修繕コストがかかるとともに利用に支障が生じている
- 土日祝や平日夜間の利用率が高く、ニーズに対応しきれていない
- 全国規模の大会やイベントなどに対応するためには観客席や駐車場が不足している
- プロスポーツなどのトップチームの大会の開催が一部の競技に限定されている

### ■ 多目的グラウンドの現状 (高知市内の主な多目的グラウンド(屋内)を含む)

施設	面積	年間利用者数 (利用団体数)	月平均	稼働率 (土日祝)	
春野総合運動公園	陸上競技場	7,350㎡	40,290	3,357	100%
	補助競技場	7,850㎡	14,229	1,185	100%
	多目的グラウンド	12,694㎡	13,766	1,147	85%
	球技場	12,625㎡	8,721	726	86%
	屋内運動場	7,129㎡	40,304	3,358	96%
高知市東部総合運動場	しらさぎドーム	3,600㎡	49,844	3,323人	100%
高知市総合運動場	よさこいドーム	3,575㎡	39,876	4,153人	100%

### ■ 多目的グラウンドの課題

- 土日祝の利用が多く、ニーズに対応しきれていない
- サッカーとラグビーを中心に県内の利用者が多いことに加え、プロやトップチームのキャンプの利用が多く、利用の調整が難しくなっている
- J3入りが期待されている高知ユナイテッドSCの練習場所の確保が難しい

## 2. 利用者からの意見

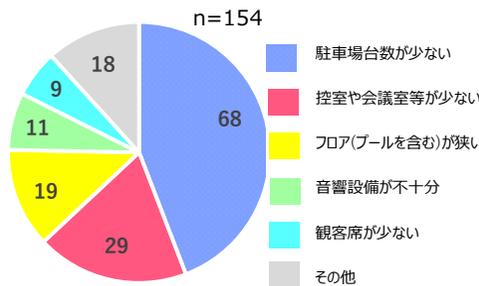
### ■ 競技団体の主な意見 (主な屋内競技団体からの聞き取り)

- 円滑な大会運営の観点から、最低限、現コート数を確保することは必須であり、可能であれば少し拡張をして欲しい
- 全国的にもプロチームの誘致が可能な施設・設備の整備を強く求める(観客席の増加、附帯施設の充実、駐車場の拡張など)
- 県内の競技大会の開催においても駐車場の拡張は必要
- 直ちに大型のビジョンは必要ないが、将来的に設置ができてほしい
- 四国の他の3県では、大規模大会の受け入れ可能なスポーツ施設が整備されており、本県もアリーナの整備が必要
- 現在の場所は、全国大会やコンサート等を行う場合、公共交通機関を使うことができるので便利
- 屋内外で食品の販売ができるようにすることが望ましい
- 体育館の空調は、横からの風が強いためプレーに影響がある
- 一定規模の屋内体育館の数が限られているため、利用調整が難しくなっている
- プールの用具庫が狭い
- 選手育成のために団体利用ができるプールは、県民体育館プールと高知市総合運動場プールに限られているため、既存プールがなくなると活動に大きな影響がでる
- プールの需要は高く、最低限、現状のプール規模の確保は必要

### ■ 一般利用者の意見 (県民体育館利用者へのアンケート)

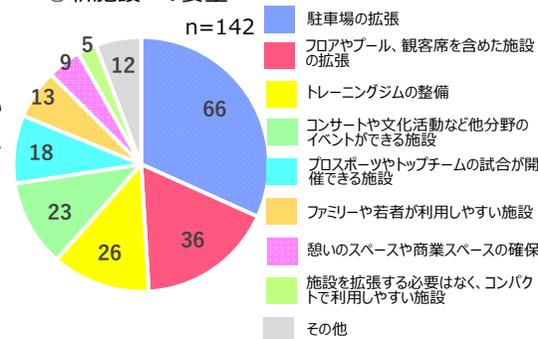
#### ＜質問1＞

#### ○ 現施設の課題



#### ＜質問2＞

#### ○ 新施設への要望



#### ＜その他の主な意見＞

- 大会を行う際に控室を取りにくい
- シャワーがない
- 更衣室が狭い
- プールの水深が浅い
- エレベーターの正面設置
- ストレッチスペースの設置
- 備品が古い

#### ＜その他の主な意見＞

- 20年・30年後にもマッチする構造
- 会議室の増設
- フリースペースの設置
- 別の場所に再整備
- 津波に耐えられる施設
- プールの拡充(50m)
- 子ども用プールの設置
- バリアフリーでユニバーサルデザインな施設

## 1. 社会的背景・スポーツを取り巻く環境の変化

- (1)人口減少や少子高齢化によるスポーツ環境の変化
- (2)新型コロナウイルス感染症の影響やデジタル技術の進化によるライフスタイルの変化
- (3)スポーツを通じた健康増進、地域活性化、共生社会の実現への期待の高まり
- (4)オリンピック・パラリンピック等を通じたスポーツへの意識や国際交流への意識の高まり
- (5)スポーツニーズの多様化

## 2. 現施設の課題

### ■ 県民体育館の主な課題

- 老朽化等により、修繕コストがかかるとともに利用に支障が生じている
- 土日祝や平日夜間の利用率が高く、ニーズに対応しきれていない
- 全国規模の大会やイベントなどに対応するためには観客席や駐車場が不足している
- プロスポーツなどのトップチームの大会の開催が一部の競技に限定されている

### ■ 多目的グラウンドの主な課題

- 土日祝の利用が多く、ニーズに対応しきれていない
- J3入りが期待されている高知ユナイテッドSCの練習場所の確保が難しい

## 3. 整備において考慮するポイント

### (1) スポーツ振興における施設面の課題への対応

- ◇プロスポーツの誘致や大規模な大会等の開催、日常的なスポーツ活動のニーズの多様化への対応など、さらなるスポーツ振興に向けた施設・設備の整備

### (2) スポーツを通じた県政課題へ対応

- ◇交流人口や関係人口の拡大を含め、人口減少対策につながる整備

### (3) 災害時の避難環境の整備

- ◇整備候補地の環境を踏まえ、災害時の避難を想定した整備

### (4) コストの削減

- ◇民間のノウハウを活用したイニシャルコスト(初期費用)及びランニングコスト(維持費用)の削減

### (5) 収益化の視点

- ◇継続して収益が得られるよう、多様な活動ができる施設・設備を整備

## 4. 基本方針策定に向けた重点ポイント

### (1) スポーツ×エンタメ

- 全国規模の競技大会やプロスポーツの試合、コンサートなど、県内外から若者や子育て世代が集い、楽しめる空間を創出
- 全県規模の競技大会等の主たる施設として整備

### (2) スポーツ×防災

- 災害発生時において、施設利用者の一次避難が可能な施設として整備

### (3) 同種施設との役割の明確化

- 周辺の同種施設の状況を踏まえ、県立のスポーツ施設として優先的に整備する機能・規模等を整理し実情に即した施設を整備

## 5. 新施設の機能・規模

### <新体育館>

- ・必要なフロア面積を確保するとともに、大規模大会やプロスポーツ、多分野のイベントの開催が可能なアリーナ機能を整備することが望ましい
- ・フロアをはじめ、附帯設備などに多様な活用を想定した機能を整備することが望ましい
- ・災害時の避難を想定した整備をすることが望ましい
- ・誰もが自由に集える憩いのエリアをつくることを望ましい

### 具体的な内容

- メインアリーナはバスケットボールコート2面～3面、サブアリーナはバスケットボールコート1面がとれる広さ
- メインアリーナは5,000人程度の観客を収容できる座席数
- 屋外に憩いのスペースと現状以上の台数を収容できる駐車場
- 多様な活用を想定した床、音響、照明、会議室・控室等の機能

## 6. 整備候補地

### <新体育館>

- ・交通アクセスの利便性を活かし、県民体育館の現有地に整備することが望ましい

### <多目的グラウンド>

- ・新たな整備については別途検討する